

第 1 6 回 宇 宙 開 発 委 員 会 （ 定 例 会 議 ）
議 事 次 第

1. 日 時 平成 8 年 6 月 1 2 日 （ 水 ）
 1 4 : 0 0 ～ 1 6 : 0 0
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 前回議事要旨の確認について
 (2) 郵政省電気通信技術審議会の答申について
 (3) NASAの1996及び1997会計年度予算について
 (4) 計画調整部会構成員について
4. 資 料 委16-1 第 1 5 回 宇 宙 開 発 委 員 会 （ 定 例 会 議 ） 議 事 要 旨 （ 案 ）
 委16-2 衛星新世紀の展望と我が国の挑戦
 委16-3 NASAの1996及び1997会計年度予算について
 委16-4 計画調整部会構成員（案）

第 1 5 回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

1. 日時 平成 8 年 6 月 5 日（水）
1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
2. 場所 委員会会議室
3. 議題
 - (1) 前回議事要旨の確認について
 - (2) J - I ロケット試験機 1 号機による極超音速飛行実験機（H Y F L E X）の打上げ結果の評価及び H Y F L E X の回収失敗の原因究明について
 - (3) 静止気象衛星 G M S - 5 を用いた S A R 実験の結果について
 - (4) ミッション実証衛星シリーズの進め方について
4. 資料

委 15 - 1	第 1 4 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委 15 - 2	J - I ロケット試験機 1 号機による極超音速飛行実験機（H Y F L E X）の打上げ結果の評価及び H Y F L E X の回収失敗の原因究明について（報告）（案）
委 15 - 3	静止気象衛星 G M S - 5 を用いた S A R 実験の結果について
委 15 - 4	ミッション実証衛星シリーズの進め方（案）
5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	野 村 民 也
宇宙開発委員会委員	山 口 開 生
〃	長 柄 喜一郎

関係省庁	
文部大臣官房審議官（学術国際局担当）	中 西 釦 治（代理）
通商産業省機械情報産業局次長	一 柳 良 雄 〃
運輸省運輸政策局次長	龍 野 孝 雄 〃
郵政大臣官房技術総括審議官	岡 井 元 〃

事務局	
科学技術庁長官官房審議官	間 宮 馨
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長	林 幸 秀 他
6. 議事
 - (1) 前回の議事要旨の確認について
第 14 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（資料委 1 5 - 1）が確認された。

- (2) J-1ロケット試験機1号機による極超音速飛行実験機(HYFLEX)の打上げ結果の評価及びHYFLEXの回収失敗の原因究明について

井口技術評価部会長及び事務局より、資料委15-2に基づき、J-1ロケット試験機1号機による極超音速飛行実験機(HYFLEX)の打上げ結果の評価等について説明が行われ、同部会の報告書が了承された。

その際、委員より、HYFLEXの回収失敗に関して、同報告書での指摘事項並びに科学技術庁航空宇宙技術研究所及び宇宙開発事業団より平成8年4月3日に宇宙開発委員会に報告された改善方策を今後の宇宙開発に的確に反映すること、及び、HOPE-Xの開発に向けて、同報告書の趣旨を踏まえ、科学技術庁航空宇宙技術研究所及び宇宙開発事業団において、境界層の乱流遷移の予測精度の向上、熱防護系のより効率的な設計等を図ることが重要である旨の指摘が行われた。

さらに、取得できなかったデータに関し、飛行中取得したデータの解析等で補うことができたかどうか、今後できるだけ早い時期に委員会に報告するようにとの指示がなされた。

- (3) 静止気象衛星GMS-5を用いたSAR実験の結果について

運輸省より、資料委15-3に基づき、平成7年7月から行われてきた静止気象衛星GMS-5を用いたSAR(捜索救助)実験について、現行の極軌道周回衛星を利用するSARシステムで生じる通信不可能な時間帯を補完するシステムとして、静止衛星を用いたSARシステムの検討がコスパス・サータット理事会及び各国で行われていること、また、今回運輸省が実施したGMS-5を用いた実験では、SAR中継器等の改良により技術的に静止衛星を用いたSARシステムの実現が可能であるとの検証結果が得られた旨の報告が行われた。

これに関し、委員より、SARシステムを利用した観測体制及び衛星EPIRB(非常用位置指示無線標識)の機能等について質問があった。

- (4) ミッション実証衛星シリーズの進め方について

宇宙開発事業団より、資料委15-4に基づき、現在同事業団で検討しているミッション実証衛星シリーズの進め方として、同衛星シリーズの目的及び基本方針、具体的な実証衛星の例、予算規模、外部機関からのミッションの公募・選定のプロセス、開発方式・スケジュール等について説明が行われた。

これに関し、委員より、宇宙開発事業団内外からの提案ミッションの選定プロセス、選定基準、提案者と宇宙開発事業団との経費・開発成果の分担、また、ミッション実証衛星の分類に関する考え方等について質問があるとともに、開発の進め方、選定プロセス等について、科学技術庁と宇宙開発事業団はさらに検討を進めるようにとの発言があった。

以上